

ポリファーマシー

ポリファーマシーとは

ポリは「たくさん」、ファーマシーは「調剤する」という意味なので、ポリファーマシーとは「多剤併用」という意味になります。明確な定義はありませんが、通常 4~6 剤以上の薬を飲んでいる事を指すことが多いです。

ポリファーマシーの問題点

では、ポリファーマシーのこういった点が問題となるのでしょうか？
ポリファーマシーの問題点を3つ紹介します。



☆薬が飲みにくい

飲む薬の種類や数が増える事で飲み忘れや飲み違いが起こりやすくなります。

☆副作用が起きやすくなる

一つの薬では起こらなかった副作用も色々な薬と併用することで副作用が起きやすくなります。

☆薬にかかるお金が増える

お薬の代金は飲むお薬の量が多いほど高くなります。

ポリファーマシーチェック

「お薬手帳」をお持ちでしょうか？
自分がどんな薬を飲んでいるか確認してみましょう。

① 胃薬 ^{※1} を3種類以上飲んでいる	
② 痛み止めの薬 ^{※2} を3種類以上飲んでいる	
③ 自分の判断で飲んでいない薬がある	
④ 色々な病院に通っている	
⑤ 10種類以上の薬を飲んでいる	
⑥ 飲み忘れる事が多い薬がある	
⑦ 飲んでいる薬が何の薬かわからない	
⑧ 薬を飲んでから体調がわるくなった事がある	
⑨ 65歳以上である	

※1 胃薬

ランソプラゾール、ファモチジン、レバミピド、セルベックス、モサプリド、タフマックなど

※2 痛み止めの薬

カロナール、ロキソプロフェン、セレコックス、ボルタレン、トラムセット、リリカなど



解説は裏面へ!

いかがだったでしょうか？

項目ごとに**ポリファーマシーになる理由**を以下に記載します。
チェックを入れた項目の番号を確認してみましょう。

- ①②→ポリファーマシーでよく見られる薬には
胃薬や痛み止めの薬が多いです。
- ③→自分の判断で薬を飲んでいないと
効果が無いと思った医師が薬を追加してしまう事があります。
- ④→色々な病院を受診すると薬が重複したり、種類が増えます。
- ⑤→10種類以上の薬を飲んでいる方は薬が飲みにくい事が多く、
副作用も起きやすい状況である可能性があります。また、お金もかかります。
- ⑥⑦→飲み忘れが多い薬がある、飲んでいる薬の効果がわからない、という方は薬が多くて飲みにくい状況である可能性があります。
- ⑧→多剤併用による副作用の恐れがあります。
また、めまいやふらつきといった副作用に対して、めまいの薬が出されるといったように、
薬がさらに増える事もあります。
- ⑨→高齢の方は症状に合わせて薬が追加される事が多く、ポリファーマシーになりやすいです。
また、薬を代謝、排泄する力が低下しているため副作用も起きやすくなります。



あくまで目安ですので、チェックが付いたからといって、絶対にポリファーマシーであるというわけではありません。

また、治療の為に薬を何種類も飲む必要がある場合もあります。例えば、糖尿病の薬や血圧を下げる薬などは、同じ効果の薬を一緒に飲むことで効果を上げています。
本当は効いているお薬を止めてしまった時に症状が悪化する場合もあります。

薬が多いからといって自分の判断だけでお薬を飲むのを止めてはいけません。

ポリファーマシーかな？と思ったら

自分のお薬手帳を見ていかがだったでしょうか？薬が多くて飲む気が起こらない、飲んでいても効いていないかもしれない、などお困りの方は気軽にかかりつけ薬局にご相談ください。

文責：実習生 鈴木
参考資料：「治療」2014年12月号
日経DI 2016年2月号